

ジョイント栽培の特徴(ジョイント栽培と慣行栽培との比較)

[メリット] ◎:効果大 ○:効果あり ±:差なし △:マイナス効果 -:評価不能

		早期成園	多収	品質安定	労働時間削減	軽労化	作業簡易化	生産コスト削減	その他の効果	
リンゴ	宮城	○	±	±	○~◎	○~◎	○~◎	○~±	防鳥ネット	
	長野 A	◎	○	±	○	○~±	○	○	早期収量・棚活用	
	B	±	±~△	±	△	±	△	±	初期収量新わい化と同等	
	北相	○	○		○	◎	◎	○	簡易防鳥ネット, 低樹高	
ブドウ	茨城	○	±	±	±	±	±	△	間伐不要, 果粒肥大	
スモモ	群馬	◎	◎	±	◎	○	○	±	優良側枝	
カキ	福岡	◎	±	±	◎	◎	◎	○		
ウメ	神奈川	◎	○	±	◎	◎	○	○	環境負荷軽減	
モモ	広島	◎	○	○	○	◎	○	○		
イチジク	愛知	◎	±	±	±	±	○	±	接ぎ木苗が利用しやすい 結果枝生育均一	
キウイ	根府川	○	±	△	±	±	○			
ナシ 20世紀系	鳥取 C	△	±	±	○	○	○	±		
	D	◎	◎	±	◎	○	◎	±	新品種普及促進	
	弱樹勢 神奈川	◎	○	±	-	-	-	-	-	弱樹勢品種安定生産
	強樹勢 埼玉	○	○	±	○	○	-	-	-	列間4mでも早期多収
	南水 南信	◎	○	±	○	-	○	-	-	既存棚活用



計画時に目標とした効果

※生産コストは農薬・肥料等の生産資材コストの削減効果

※長野の評価: Aは対マルバカイドウ台普通樹
Bは対新わい化栽培での比較
※モモは側枝基部上方誘引, 側枝先端部水平誘引
※鳥取の評価: Cは「おさゴールド」
Dは県育成新品種の評価

下方誘引

上方誘引

水平誘引

[デメリット]

●:問題あり ▲:やや問題あり -:問題なし

		苗コスト	棚コスト	育苗労力	接ぎ木労力	追加管理	その他
リンゴ	宮城	▲	●~▲	●~▲	●	摘芯	
	長野 A	●	▲	●	●	側枝誘引	既存棚利用
	B	▲	-	▲	●		
	北相	●	▲(支柱)	●	●	側枝誘引	品種間差大
ブドウ	茨城	●	-	-	●	-	着色、成熟遅延
スモモ	群馬	●	-	●	●		ウイロイド対策
カキ	福岡	▲	●	-	●		獣害、霜害、風害、除草
ウメ	神奈川	▲	●	-	●	青ウメ摘果	PPV対策
モモ	広島	●	▲	●	●		側枝更新
イチジク	愛知	●	-	▲	●		接ぎ木苗の確保
キウイ	根府川	▲	-	●	●		かじよう病対策・品質バラツキ
ナシ 20世紀系	鳥取 C	●	-	●	●		
	D	●	-	●	●	摘心	
	弱樹勢 神奈川	●	-	●	●		
	強樹勢 埼玉	●	-	●	●		「あきづき」育苗技術
	南水 南信	●	-	●	▲	-	「南水」のえそ斑点病感染

下方誘引

上方誘引

水平誘引

※長野の評価: Aは対マルバカイドウ台普通樹
Bは対新わい化栽培での比較

※鳥取の評価: Cは「おさゴールド」
Dは県育成新品種の評価